The Zoological Society of Japan

も早からしむ。(二)右の如くにして養育せる蠶繭の重量は、通常繭と大差なし。但し繭層量幾分多し。

(永澤六郎)

雜錄

●本邦産青鮫の「アンソソーマ」

昨年七月七日、標本採集者金太郎、東京市場にて得たる青鮫の下顎なりとて、*Anthosoma* の寄生せる者を持來れり。「アンソソーマ」は、件の下顎の、前端中央線の左右に在る四本の齒の最内側の者、即ち、猶ほ直立せず、粘膜に沿うて後方に向つて伏せる者の外側、即ち、左の者は左側、右の者は右側に接して、齒齦にやゝ大なる孔を穿ち、其中に、二匹づゝ、各々體の前部を肉中に埋めて存在せり。又、寄生蟲は、二本の長大なる、而も其先端に鉤を有する、第二觸角を一所に集めて深く肉中に挿入しありし故、是を宿主より引離すこと甚だ困難なりき。

雌● 頭胸部の背面は、褐色を帶びたる稍楕狀の硬き甲をなす。甲は、前方より後方に至るに從ひ、漸次に少しく幅廣くなれり。後緣は圓く終り、前端は稍扁し。頭部と胸部との間には、不鮮明なる分堺ありて、兩者を識別し得。

第一觸角は、細くして七節よりなり(註一)、頭胸部背甲の側緣下に蔭れ、先端は後方に向へり。長さ約五粍あり。其基部に近き處は、少しく屈折せり。

(註一) SCOTT は *Lamna cornubica* より得たる *Anthosoma crassum* にては六節なりとせり。

第二觸角は、第一觸角に比して著しく太く且つ長く、尙ほ形狀も變化して、前述したる如く附着器と成れり。全體六節より成る(註二)。其中、基部の一節は弧狀に曲りて太く、次の二節は長大にして直圓筒形を呈し、第四節は短く(註三)、第五節は多少變化して稍棍棒狀をなし(註四)、最後の一節は强大なる鉤を形成す。此鉤は褐色にして、其先端は何れも寄生蟲の背面に相當する方向に向へり。全體の長さ約八粍、幅〇・七乃至一粍あり。

(註二) スコットは、上記の種に於ては、三節より成るとせり。

(註三) 尤も一側に於ては、其先端少しく延長す。

(註四) 其先端に近く、稍大形なる一個の齒狀突起あり。

大顎は(第二圖)薄き黃褐色を呈せる稍鞘形の唇狀部の内に在り。細長棒狀にして、大さの差餘り著しからぬ三節より成る。先端の一節は褐色にして鋸狀を呈し、其平直なる一側には、短き鋸齒狀突起並列す。其數約十八個あり。大顎は、長さ約一・七八粍、幅、最も太き基節にて〇・一六粍あり。

小顎は(第三圖)大顎に密接して存在す。薄くして細く、葉狀をなし、殆ど透明なり。葉狀部は中央に近く分堺の痕跡ありて、其二部よりなることを暗示する如けれど、此點餘り明瞭ならず。先端は尖りて、僅數の毛狀突起に終れり。基部の一側に二節よりなる小附屬枝あり(註五)。

NII-Electronic Library Service

The Zoological Society of Japan

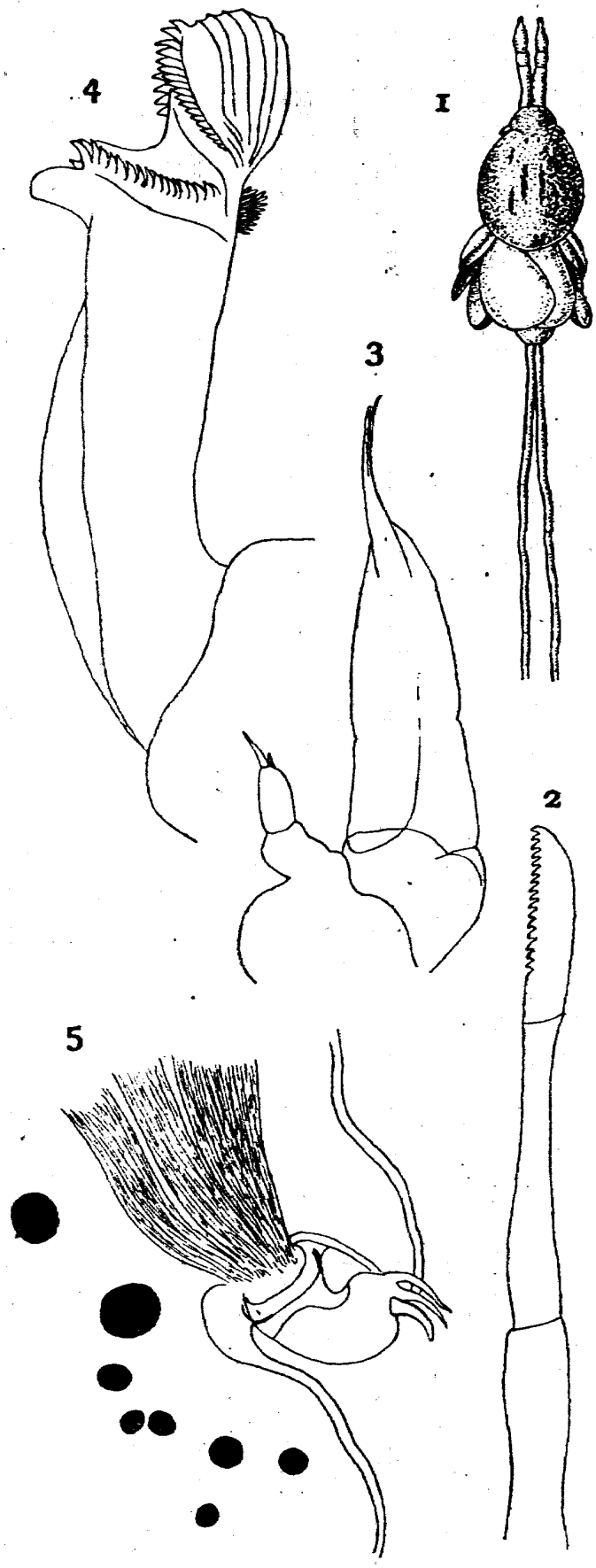
（雜　錄）○本邦產青鮫の「アンソツーヾ」

（註五）スコットは、大顎及小顎に就ては何等の圖畫も記述もなさず。

第一顎脚は三節より成る。基部の第一及第二節は殆ど同長なれど、太さは第一節の方著しく大なり。末節は小にして特異なる形狀を呈し（第四圖）、其表面には、斜に走る粗き子午線樣の隆條を示す。又一側には、斜に連る鋸齒狀部あり。中節、末端の緣邊も鋸齒狀を呈す。尙ほ其の一側には、小毛突起にて被はれたる圓形の小突起附着し、一側には、一個の大なる齒狀突起あり。

第二顎脚は第一顎脚とは全く構造を異にし、基節は著しく太くして短く、先端には一個の强大なる鈎を備ふ。基節の腹側、即ち鈎と接すべき側には、大小數個の簡單なる突起あり。基節の末端は後方に向へど、鈎の先端は前內方に向へり。

胸脚は三對あり。何れも薄く、葉狀にして、類圓形を呈す。概ね同大なれど、最初の者は僅かに幅狹し。第一及第二の者には、其內側に小切込あれど、最後の者には之無し（註六）。胸脚の表面には、稍著しき黑色の圓點散在す。



第一圖。青鮫の *Anthosoma* 雌、背面圖。二倍。　第二圖。大顎。四十五倍。　第三圖。小顎。四十五倍。　第四圖。第一顎脚。四十五倍。
第五圖。雄の第一胸脚內緣の切込中にある指狀突起を示す。四十五倍。

NII-Electronic Library Service

The Zoological Society of Japan

(註六)スコットは何れの對にも切込ありと記せり。

●卵糸は長くして、長さ四乃至五糎、幅約〇・五粍あり。

雄　雄は大體の形狀雌と同一なれど、背部に鱗狀板(clytraform plates)の無き點(註七)、頭胸部に續く三體節の明なる點、第一第二胸脚の切込中に、末端に小鈎を備ふる小形なる指狀突起を有する點(第五圖)、第三胸脚の內緣少しく硬化せる點、及、卵糸を缺如する點等に於て、雌と異る。

(註七)雌には、頭胸より後方、背面全體を被ふ處の一對の鱗狀板あり、其形大さ等略ぼ第三胸脚と同じ。

二個の型的なる雌雄に就き測定したる大さ左の如し、

	體長 頭端より尾部突起の先端迄	頭胸部背甲の長さ	同上の幅
雄	一・四五糎	八・五粍	五・五粍
雌	一・六〇糎	八・五粍	六・〇粍

以上記載したる成蟲の外、余は、前記靑鮫の下顎より、一個の幼小なる「アンソソーマ」を得たり。此の幼蟲は、下顎の右側に於て、成蟲の寄生せる次の列の齒の內側の粘膜に附着し居れり。體は半透明にして白色を帶び、頭端より尾部突起の先端迄の長さ四粍、頭胸部背甲の長さ二・五粍、同上の幅一・七粍、體の形狀は、大體既に成蟲となれる者と同樣なれと、第二觸角は前方に向はずして後方に向ひ、背部の鱗狀板は未だ極めて小にして、漸く頭胸部背甲の後緣より少しく其形を現はせるのみ。勿論、左右の各板は、成蟲に於る如く、中央に於て互に相重なり合ふ如きことなし。尙ほ、頭胸部以後に於ても、體節の堺、分明なり。

本種は、スコットが *Anthosoma crassum* (ABILDGAARD) として記載したる者と同一の者なるべし。尙ほ、本種は、一般的體形に於ては著しく異るも、其諸附屬肢、殊に、第一及第二觸角、大顎、小顎、第一及第二顎脚等に於ては、*Acipencer sturio* の鰓に寄生するテフ *Dichelestium oblongum* (ABILDGAARD) によく類似す。*Anthosoma crassum* は、外國にては、*Lamna cornubica*, *Lamna punctata* 等に寄生すること知られ、其分布區域頗る廣し。即ち、スコットランド沿海、ニュージーランド、北米マサチュセッツ沿海等より採集せられたる報告あり。金太郎は、本蟲の靑鮫に特有の者なることを主張す。

(石井重美)

●「ステゴドン」歐洲に產するか(追記)

予は、本誌前號に於て、「ステゴドン」歐洲に產すといふに對し、異論を挾み置きたるに、其後落手せる獨逸雜誌 "Neu. Jahrb. f. Min., Geol. u. Pal.", Bd. I, Hft. 3; Juni 1915 を披見するに、W. FREUDENBERG が、ビルトダウン頭骨を抄錄するに際して、例の「ステゴドン」を *Elephas cf. planifrons* となせるを發見せり。即ちかの國にては、約八箇月以前に、既に予と同說をなせるものあるを知るなり。

(松本彥七郎)

NII-Electronic Library Service